「日韓図書館学会国際交流の旅」に参加して

井　尾　義　徳

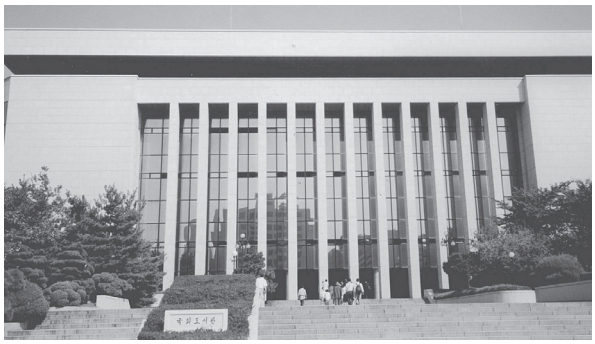
昨年（平成11年）の８月、西日本図書館学会と韓国文献情報処理研究会との交流の一環として、標記の催しが４日間の旅程で実施された。参加者は15名、大分県からは、大分県立図書館の西来寺秀彦館長と、本学の佐藤允昭先生、安貞淑先生、それに私の４名が参加した。佐藤先生をはじめ福岡市総合図書館の富原智一先生、九州国際大の福永義臣先生のご努力と、安先生のご仲介の労によって実現に漕ぎつけた由、お陰で有意義な旅を経験することができ感謝している。

８月16日は晴天に恵まれ、お盆過ぎの月曜日であったせいか、福岡空港の新しい国際線ターミナルは思ったより混んでいた。10時すぎ大韓航空のジャンボ機で出発したが、わずか１時間半足らずで金浦空港に到着。大分－東京間とほぼ同じ時間で隣国の首都に降り立った気分は、私自身には二度目のソウルであったけれども、時差のない安らぎと親しみの旅ごころとでもいえるような心地よさであった。

山田邦子に似ていると自称するガイド嬢の案内で、「西日本図書館学会」の名札をフロントガラスにつけた貸切バスは、ひとまず昼食の料理店に直行。本場の石焼きピビンパに舌鼓を打ってすこぶるご機嫌の一行は、予定された市内観光へ。バスの窓から見る車の右側通行に、ちょっぴりエトランゼの気分を味わいながら、景福宮（キヨンボックン）に向かう。李朝の太祖李成桂が造営した朝鮮王朝最大の王宮跡である。景福宮の広大な敷地の一番奥にそびえる国立民族博物館の見学をすませ、バスの中から市内観光を楽しみながら、夕刻には交流会の会場に着いた。韓国側からは、延世大学の金大樹教授、梨花女子大学の崔錫斗教授ほか数名の先生方が出席され、２時間以上にわたる意見交換と韓国珍味を満喫しながらの交歓に、時の経つのを忘れるほどであった。英語もだめ、韓国語は簡単なあいさつ以外は全く知らない私などは、日本語に堪能な金、崔両先生相手でしか意志の疎通は無理であった。その中にあって、英語が共通語として有効であることを、今さらながら実感させられた。二次会に案内されたカラオケ店には、日本の歌謡曲が100曲以上揃っており、韓国の先生方も石原裕次郎などを歌われる。日本の夜の街かと錯覚するひと時であった。

２日目17日も朝から快晴。８時50分ホテルを出発、ソウルのマンハッタンと呼ばれる汝矣島（ヨイド）の美しい広場に、国会議事堂と並び立つ国立国会図書館（National Assembly Library）の姿は、誠に壮観で印象的なものであった。我が永田町のそれのせせこましい環境とは対照的に、外も内

景福宮の正殿「勤政殿」の偉容



国会議事堂（左手奥になる）と並び立つ国会図書館

も広々としてゆったりと明るい。蔵書構成は、社会科学50％、人文科学27％、残りが自然科学である。プリントアウトも文献コピーも一律50ウオン（約５円）と聞いては、ウーンと唸るやら吐息をもらすやら。電算化は1980年代から着手、あらゆる面で国内最高の充実ぶりを誇っているという。

次に訪れたのは、汝矣島の南十数キロの緑に包まれた丘陵地に、これまた広大なキャンパスの広がる国立ソウル大学だ。日本でいえば東大に匹敵するとはガイド嬢の弁。高校の成績が学年３位以内でないと合格はおぼつかないとか。日本よりかなり厳しい受験競争にあって、難関中の難関というのもむべなるかなと納得する。とにかく、徒歩で移動することはとても不可能なほどの広い広い構内のほぼ中央に、Seoul National University Central Library のビルが、広い間口に奥行き深く６階建ての堂々たる風格でそびえていた。床面積は３万平米、座席数４千席、学内にはほかに六つの学部の分館があり、英語版案内パンフの写真を見るといずれも大きくて立派である。中央館分館合わせた蔵書数は210万冊を越えるとある。ソウル大学の中枢であるばかりでなく、韓国学術界の心臓部である。また本館内には、学生のための広い学習室が６室あり、朝６時から夜の11時まで開いているとか。その中の１～２室は年中24時間オープンだと説明され、驚くとともに感心させられた。これは、このあと訪れた延世・梨花女子両大学でも同様であった。構内の一角、林の中に建つ教授会館という施設のレストランで中食（洋食）をすませ、ソウル大をあとにした。

蔵書210万余を誇る韓国学術の中枢

（国立ソウル大学中央図書館）

リーディングルームは学生たちでいっぱい

（国立ソウル大学中央図書館）

午後は、ソウル中心部から３～４キロ西に位置する延世大学と梨花女子大学の図書館を訪ねた。日本でいえば早慶に当たるとガイド嬢のいう延世大。この図書館もまた５、６階建ての立派な建物で、

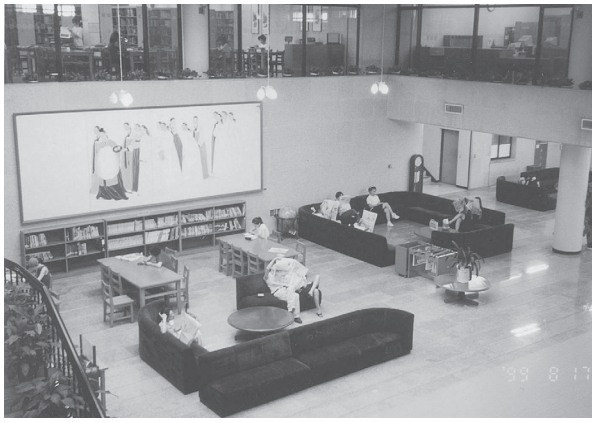
貴重書庫の37％を世界的な稀覯書が占める
（延世大学図書館）

世界的な稀覯書や古文書で埋まる貴重書庫
（延世大学図書館）

貴重書庫10万冊の37％が世界唯一本という古文書や稀覯書などが、累々と書架を埋めつくすさまをはじめ、参考調査室の独立等々その充実ぶりには目を見はらせるものがあった。

延世大にほど近い梨花女子大の構内にバスが入ると、さすがにこれまでのキャンパスとはちがって、どこか優雅で華やいだ雰囲気が漂う。女子学生ばかりで男性の姿がほとんど見られないせいもあるが、建造物の装いや庭園植栽の上品なたたずまいが、女の園を感じさせたにちがいない。図書館のエントランスホールはゆったりとして、館内にかすかにピアノの曲が流れていた。案内された貴重書庫の一角には、戦前の日韓併合時代に使われた日本の学校教科書類等が多数架蔵されており、ふと目にとまった中に、“『中等修身教科書』井上哲次郎著” の背文字を発見したときには、いささか鼓動の高まりを禁じえなかった。あわただしく手にしてめくってみたその奥付には、明治35年発行とあった。また梨花女子大学では、図書の配架をはじめ諸々の作業に図書館学専攻の学生をアルバイトとして雇用し、手当には現金を渡さず年間授業料の一部に当てるという、きわめて合理的な方法をとっていることを知り、慎ましやかな学生気質の一面に感心させられた。

館内に静かなピアノ曲が流れる優雅なたたずまい
（梨花女子大学図書館）



ゆったりとしたエントランスホール　－右方が玄関－
（梨花女子大学図書館）

大学院修・博士課程の卒論を架蔵したコーナー
（梨花女子大学図書館）

このほか、３大学図書館に共通のこととして、「参考調査室」が独立していて、読書室や学習室とは別に「調べる」体制が重視されていること、電算化が充実し学生の利用も盛んであるが、館内は静かで落ちついた雰囲気であったこと、そして、夏休みのさ中にもかかわらず、どのキャンパスも図書館内も学生の姿が多く、きびきびとした活気が感じとれたこと、など特に印象に残った。

ところで、この日国会図書館からソウル大学に向かうバスの中で、韓国旅行ならではの思いがけない、ある意味で貴重な体験をした。私たちの乗った貸切バスが車や人で混雑する交差点の手前で急に停車した。サイレンのようなものが鳴ったような気もするが、すべての乗物がその位置で止まってしまった。車窓から見る限りでは、市民の歩行も止

められているようであった。およそ20分か30分もたって、何らかの合図で人も車もいつもの動きにもどっていたが、とっさのことで、はじめは何が起きたのか見当もつかなかった。ガイド嬢の説明によると、「民防の日」（正式には民間防衛訓練の日）というもので、年に数回15日前後に全国民を対象として行われる緊急避難訓練だそうだ。たまたまその日その時に遭遇したというわけであった。平和ボケなどと言われる日本人にとっては、刺激的な体験であるにはちがいない。漢江の大きな河川敷に、おびただしい数の軍事車輌が並んでいたり、中央分離帯をたやすく取り除けるようにした幅の広い高速道の直線部分が、一朝有事の際には戦闘機の滑走路に早変わりすることなどとあわせて、韓国が戦時体制下にあるという彼我の国情の違いを、改めて痛感させられた。韓国は現在も戦時中なのです、と言ったガイド嬢の声と表情が、口から出た言葉のわりに穏やかであったことに、ホッとする思いであった。

３日めのソウルは薄曇りで、朝から気温が高かった。金浦空港を11時すぎに発って１時間で釜山に到着、専用のバスで古都慶州に向かう。厚い雲のたれこめた京釜高速国道を20分も走ると、ついに雨になった。この道路にも、途中約2.5キロにわたり路側帯が道幅以上に広い区間があったが、ここもまた、中央分離柵を簡単に取り除くと、有事の滑走路に変身するという算段になっていた。慶州（キョンジュ）は、紀元少し前からおよそ千年も栄えた新羅王朝の都の跡だが、大規模な古墳公園や世界遺産の仏国寺をはじめ、目を見はるような国宝級の遺跡と、発掘された秘宝の数々を展示する国立博物館など、見るべきものが多い。まるで天の水瓶の底がぬけたようなどしゃ降りの雨で、残念ながら今回は、古墳公園と仏国寺がやっとという次第となった。郊外には、雨を含んでざわめく稲の葉波が広がり、小高い山々には日本でよく見る緑濃い広葉樹林がいくえにも重なりあい、道の両側に延々と何キロも続く桜並木風景など、そこはかとなく遺伝子をくすぐるような、ふしぎな“なつかしさ”を感じさせてくれた。その日は、美しい普門湖畔のホテルに韓国最後の夜の夢を結び、翌日同じ道を釜山に引き返した。12時半釜山空港を飛び立ち、１時半すぎには福岡空港の国際線ロビーで、互いに解散のあいさつを交わしていた。

“はじめてなのになつかしい” 以前韓国観光の日本人向けキャンペーン雑誌かなにかで目にしたコピーだが、今回私にとって二度目の韓国が、また近いうちにぜひ訪れたい国の一つになってしまったことを、うれしく思っている。

（いお・よしのり　短期大学部生活文化科）

535年創建の世界遺産「仏国寺」の山門
（慶州）

新羅王陵など古墳群が広がる古墳公園
（慶州）